

2018年以來となる御巢鷹山慰霊登山を開催しました

航空安全会議では、航空事故を風化させてはいけないという想いを後世に伝えるため、1985年8月に発生した日航機墜落事故の慰霊碑を訪問する活動として「御巢鷹山慰霊登山」を長年に渡って実施しています。

ここ数年は台風の影響による直前の中止や大雨などによる登山道の閉鎖、また新型コロナウイルス感染症の世界的流行による行動制限の影響などによって、しばらくの間開催が叶わない状況が続いていました。航空安全会議として今期こそはこの活動再開を実現すべく、天候やバスの手配などが安定している時期を考慮して開催時期を再考した結果、これまでの秋季から春季へ変更することにしました。

5月9日の朝、羽田空港を午前6時30分に出発する頃はあいにくの小雨模様でしたが、池袋駅を経由して14名を乗せたバスが御巢鷹山の登山道入り口に到着する頃には天候も回復し、その後は晴れ間も見られるなど絶好の天候となりました。参加者はまず、御巢鷹の尾根にある「昇魂の碑」で参加者全員が黙祷を捧げた後、航空安全会議の担当者から事故の概要、そして御巢鷹の尾根管理人から現地における事故後の対応等の具体的な説明を受けました。その後は上野村にある「慰霊の園」を見学しました。帰路も道路状況に恵まれ、バスは羽田空港に19時過ぎに到着、無事終了となりました。



<「昇魂の碑」の前で説明を聞く参加者>

航空機の運航に直接携わる私たちは、様々な安全教育を受講する場面がありますが、こうして事故現場へ直接足を運ぶ機会はなかなかありません。そこで航空安全会議では、御巢鷹山慰霊登山というイベントを「安全とは何か」について再確認する重要な活動機会と捉えています。

私たちは来期もこの活動を実施する予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

以上